

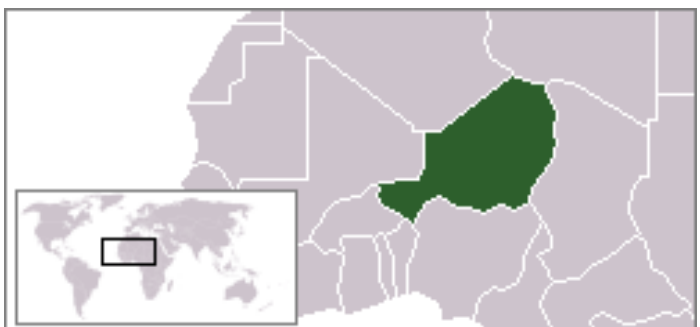
ベナンの風便り

2009年8月号

みなさん夏休みも終盤にかけましたが、いかがお過ごしですか？こちらベナンは「アフリカ=暑い」というイメージ？とは反して、とても涼しい日が続いています。

さて先月号ではアフリカ中西部にあるガボン共和国についてお伝えしました。今回はベナン北東部に位置するニジェール共和国についてお伝えしたいと思います。この国は生活の質や発展度合いを示す指標である「人間開発指数」においてたびたび最下位となっている国です。ちなみに日本は首位にもなったことがあります。自分たちの生活と比べてどうでしょうか？

ニジェール共和国



面積	1,267,000 平方キロメートル (日本の約3.4倍)
人口	約1,530万人
首都	ニアメ (Niamey)
言語	仏語(公用語)、ハウサ語等
宗教	イスラム教(約80%) キリスト教、伝統的宗教
主要産業	鉱業(ウラン埋蔵世界第3位) 農業、畜産業

ニジェールは国土の北部3分の2をサハラ砂漠が占めとても乾燥した気候です。また南部も近年砂漠化が激しく問題になっています。そのため南部に限られた農耕も降雨量に大きく左右され、しばしば干ばつが起っています。訪問した時は雨季で涼しい時期にもかかわらず、ベナンと比べたらとても暑く、完全に夏バテ状態・・・。夜でも室内で34℃ありました。ニジェール隊員の話によると暑い時期には夜寝苦しく、バケツで水をベッドにかけてビショビショにして寝るそうです。でも朝起きると乾燥のためベッドはカピカピ状態・・・。すごいですね！

さてこの便りでたくさんのお話を伝えるのは難しいので、今回は訪問した際に訪れた村の生活の様子についてお伝えします。この村では隊員が現地の人々と共に、右の写真のような土壁の家に住み、電気、水道のない生活を送っています。トイレ(穴があるだけ)や水浴びは外の囲いの中で行うそうです。水道がない生活なのでもちろんシャワーなどを浴びることなんてできません。水は毎日自分で井戸ま



で汲みに行って、1日バケツ3杯の水ですべての生活をまかなっているらしいです。その3杯の水ではトイレを流したり、水浴びをしたり、洗濯をしたり、料理をしたり・・・。使用済みの水を上手に使いまわしてやりくりをするそうです。例えばトイレにはきれいな水は必要ないですよね！？限られた水を有効活用する姿勢は、本当は水道のある生活をしている私たちにとっても大切なことですよ。

右の写真は村人の家の中。土壁の家ではありますが、中はみんなきれいにしています。3日ほど前に自分の家で赤ちゃんを出産したらしいです。驚くかもしれませんが家での出産はアフリカではめずらしくないことなんです。産まれたばかりの赤ちゃんは黒人でも肌が黒くなく、だんだんと色が付いてくるそうです。



左の写真は炊事場(手前)と穀物の貯蔵庫(奥)。もちろん全て土でできています。乾燥した期間が長いニジェールでは収穫した作物を保存し

ておくことがとても大切。その作物をネズミなどから守るために、貯蔵庫は大切な役目を果たしています。

右の写真は食事の準備で、粟(あわ)をついて粉状にするのを体験！この棒が重いし、またしっかりと中心をたたくのが難しい！でも村のおばさんたちは軽々と片手でやってのけてしまうんです・・・。すごいですよね。

長い時間村の生活を体験することはできませんでしたが、その生活の様子を垣間見ることができました。確かに生活は貧しいです。でも人々の表情からは全くそんなことは感じず、むしろ心はとても豊かだと感じました。ものがあふれる国「日本」。私たちの国は便利さを得た代償として、人と人とのコミュニケーションの機会を失ってしまったような気がします。しかしここではものがなくて不便な分、人と人とのコミュニケーションが大切なのです。私たちはものが乏しい国に豊かにある「人と人のつながり」、そしてそこからくる「豊かな心」を学ばなければいけない気がします。まずはみなさんも家族、友達、先生、近所の人とのあいさつから始められると良いですね。



汲んだ水を運ぶ子どもたち



ブログ更新中

ベナンの風：<http://benin.seesaa.net/>